

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-048	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The role of alcohol in the management of hypertension in patients in European primary health care practices – a survey in the largest European Union countries プライマリケア診療での高血圧管理におけるアルコールの役割 – EU 諸国での調査		
執筆者		
Rehm J, Prieto JA, Beier M, Duhot D, Rossi A, Schulte B, Zarco J, Aubin HJ, Bachmann M, Grimm C, Kraus L, Manthey J, Scafato E, Gual A.		
掲載誌		
BMC Fam Pract. 2016 Sep 8;17(1):130. doi: 10.1186/s12875-016-0529-5.		
キーワード		PMID
プライマリヘルスケア、高血圧、アルコール多飲、疾病管理		27608770
要 旨		
目的：		
高血圧治療ではほとんどのガイドラインにて生活習慣に対する取り組みが主に推奨されるが、アルコールの問題が高血圧のプライマリケアにおいて取り上げられることは少ない。		
方法：		
フランス・ドイツ・イタリア・スペイン・イギリスの開業医 (GPs)のメイリングリストを通じて、3,081 のプライマリケア医を対象に、高血圧およびアルコールに関する Web 調査を行った。調査項目は、①診療 (生活習慣の改善による高血圧診療)、②知識 (アルコールと高血圧の関連)、③教育 (卒業前あるいは卒業後のアルコール、高血圧の教育)、④トレーニング (患者とのコンタクト)に関する項目とした。ロジスティック回帰分析を用い、高血圧管理における A) アルコール摂取の評価、B) アルコール依存に対する介入あるいは C) アルコール依存に対する治療をそれぞれ目的変数とし、①～④との関連を検討した。さらに、説明変数として、性、年齢および国を加え検討した。		
結果：		
参加した GPs の 34.0% (95%信頼区間[CI]: 32.1-35.8%)が高血圧患者の十分なアルコール摂取の評価を行っていた。また、22.2% (95%CI: 20.6-23.8%)はアルコールの評価に加え危険量摂取している患者に対し、介入を行っていた。さらに、7.8% (95%CI: 6.8-8.9%)の GPs はアルコール依存を呈している高血圧患者に助言や介入ではなく治療を行っていた。これらの割合は 5 か国間での差が大きかった。ロジスティック回帰分析の結果、アルコール過剰摂取者あるいは依存者に対し介入を行うかどうかは、薬ではなく生活習慣改善を中心とした診療およびアルコールに関する卒業教育が関連していた。また、5 か国間でアウトカムに与える影響の差が大きかった。		
結論：		
総じて現時点での介入率は低いが、国家間の差が大きく、現在の診療内容が改善される可能性を示唆した。卒業教育が、プライマリケアにおいてアルコール摂取過剰あるいはアルコール依存患者への治療介入の診療方法改善への鍵となると考えられた。		